

「武豊線の駅業務体制の見直しについて」提案される

11月15日、会社は「武豊線の駅営業体制の見直しについて」提案を行いました。武豊線6駅で駅営業体制の効率化を図るために、遠隔操作による集中旅客システムを導入するというものです。つまり、駅員は配置されないまま券売機で乗車券等の発売を行い、乗り越し計算も旅客がインターホンで遠隔案内センター（太閤ビル内）とやりとりを行い、券売機で精算を行うというものです。これにより、駅業務体制も大幅に見直されます。

名古屋地本は詳しい説明を求めるとともに、問題点について議論を行いました。されに問題があれば、申入をおこなうことを伝えてきました。

具体的な提案内容

1. システム導入後の営業体制

(1) 集中旅客サービスシステムの導入

- ・ 6駅（緒川、東浦、亀崎、乙川、東成岩、武豊）にシステムを導入し、遠隔案内センターで一括管理
- ・ 遠隔案内センターを太閤ビル内のテレホンセンターに設置

(2) 半田駅をシステム導入駅に現地出動する拠点駅とし、同時に業務委託化

(3) 武豊線の管理駅を半田駅から大府駅に変更

2. 工事概況

(1) システム導入駅に自動券売機（精算額収受機能付き）やインターホン等を設置

(2) 遠隔案内センター（太閤ビル）、拠点駅（半田）に遠隔案内装置を設置

3. 実施時期

平成25年秋以降

4. 要員増減

別途提示

参考

大府	・・・	現行のまま（直営）
尾張盛岡	・・・	現行のまま（無人駅）
緒川	・・・	東海交通事業 → 集中旅客サービスシステム導入駅
石浜	・・・	現行のまま（無人駅）
東浦	・・・	無人駅 → 集中旅客サービスシステム導入駅
亀崎	・・・	東海交通事業 → 集中旅客サービスシステム導入駅
乙川	・・・	無人駅 → 集中旅客サービスシステム導入駅
半田	・・・	直営 → 東海交通事業
東成岩	・・・	東海交通事業 → 集中旅客サービスシステム導入駅
武豊	・・・	東海交通事業 → 集中旅客サービスシステム導入駅

具体的な議論

組合：いつから工事するのか。また費用を明らかにすること。

会社：工事は平成25年春から始める。費用は3.4億円を見込んでいる。ちなみに電化は平成27年度である。

組合：武豊線に導入しこれをモデルにして他の線区に拡大するのか。

会社：いまはその様な考えはない。

組合：導入によるメリットは何か。

会社：今の体制より、営業時間が長くなる。列車の安定輸送にもつながる。

組合：列車の安定輸送とは何を指すのか。

会社：ワンマンなどで精算業務がなくなる。導入駅はワンマンドアはすべて全車扱いとなる。

組合：トラブルが起きたときは、半田駅から現地に出動としているが、誰がその指示を出すのか。

会社：東海交通事業内での問題になる。

組合：現地までは、どのような交通手段を用いるのか。

会社：自動車も配置するが、列車も考慮に入れ早い対応ができる手段とする。

組合：このシステムでは、乗り越し精算などで、不正が発生する。

会社：可能性は否定しないが、お客様のモラルである。

組合：名鉄ではすでに導入されている。自動改札機にはシャッターが付いているが、今回はシャッターをつけるのか。

会社：つけない。

組合：精算を自動改札機の外側で行うならば、余計に不正が発生するのではないか。

会社：モラルに期待している。

組合：紙幣詰まり、発券できないなど乗車に対するトラブルで列車に乗れない場合も発生するのではないか。

会社：連携を大切にやっていく。

組合：十分考慮すること。要員はどうなっているのか。

会社：まだ検討していない。半田駅、テレフォンセンターは増員を見込んでいる。

組合：負担がかかり、大変なのは現場対応である。十分な配慮を行うこと。また問題があれば申入を行う。

会社：了解した。

以上